



コウガの森・共和から

園長 小林 崇

The Last Time (邦訳：最後のとき)

4月から毎月1回講師を招いて、園内で職員研修をしています。研修では「私立園」で働く「保育・教育者」にとって大事なことをテーマに研修を行なっています。今回は職員教育について紹介しようと思っていたのですが、講師との会話の中で偶然話題にのぼった詩が素晴らしかったので園便りにて紹介します。

もともと英語で書かれていた詩が邦訳され、SNSなどで話題になっているようで、既にご案内の方もいるかもしれません。

家庭でも、園でも、親にとっても、保育士にとっても、「苦難」はあります。詩が語るのは、「今・ここ」で向き合っているお母さん・お父さん・先生たちへのエールです。是非ご一読ください。

『最後のとき』

赤ちゃんをその腕に抱いた瞬間から あなたはこれまでとは全く違う人生を生きる
以前の自分に戻りたいと思うかもしれない
自由と時間があって 心配することなど何もなかったあの頃の自分に
今まで経験したことがないほどの徒労感 毎日毎日まったく同じ日々
ミルクを与えて背中をさすってやり おむつを替えては泣かれて
ぐずられて嫌がられて 昼寝をしすぎてもしなくても心配で
終わることのない永遠の繰り返しに思えるかもしれない

だけど忘れないで……

すべてのことには、「最後のとき」があるということ
ご飯を食べさせてやるのはこれが最後 眠っている子どもを抱くのはこれが最後
抱っこ紐を使うのはこれが最後 手をつなぐのはこれが最後
寝る前に本を読み聞かせて 汚れた顔をふいてやるのもこれが最後
子どもが両手を広げて あなたの胸に飛び込んでくるのもこれが最後

だけど「これが最後」ということはあなたには分からない

それがもう二度と起こらないのだと気付くころには

すでに時は流れてしまっている

あなたの人生のこの瞬間にも たくさんの「最後」があることを忘れないで

あと一日でいいから、あと一度きりでいいから、と切望するような

大切な「最後のとき」があることを